

平成21年度 事務事業評価シート（平成20年度実績分）

事務事業名	市単河川緊急浸水対策事業費		部課コード	2248	予算事業科目	010803030190	事	単	区分	継続	
所管部署	担当部局	建設下水道部	部長名(2次評価者)	海治 甲太郎		個別事務	全部	010803030190	-		
	担当部署	河川水路課	所属長名(1次評価者)	伊野部 博志			-				
	電話番号	088-823-9475	E-mail	kc-161200@city.kochi.lg.jp			-				

1 事業の位置付け

予算科目(平成20年度)	高知市総合計画・実施計画施策体系での位置付け				
会計	01 一般会計	目標	03 C環境と共生する安全で快適な都市	政策基本方針	災害に強いまちづくりを進めるため、自然の循環作用にも配慮しながら、都市防災構造化を推進するとともに、市民と行政とが一体となった防災対策、応急活動を行う自主防災組織の育成・強化、災害に強い人材育成などに取り組みます。
款	08 土木費	政策	01 災害に強いまちづくり		
項	03 河川費	施策	01 災害に強い基盤整備		
目	03 河川改良費	区分	05 河川水路等整備事業		

2 事業の根拠

法律・政令・省令	地方自治法、河川法第100条、国家賠償法第2条、	法定受託事務
県条例・規則・要綱等		
市条例・規則・要綱等	高知市事務分掌条例(規則)、高知市河川法施工条例(施工規則)、高知市法定外公共物管理条例(施工規則)	
その他(計画、覚書等)	2001高知市総合計画(第3次実施計画)	

3 事業の目的・内容等

対象	誰(何)を対象に	高知市民(市街区区域内市民)		
意図	どのような状態にしていけるのか	市街区区域の浸水被害の解消や生活環境の改善を図り、災害に強いまちづくりを目指す。		
手段	事業実施体制等	河川水路課職員、調査設計業務委託	事業開始年度	平成11年度
			事業終了年度	-
活動内容	どのような事業活動を行うのか	河川水路改修 排水機場の機能拡充整備		
成果指標	事業目的の成果を測る指標		指標設定の考え方	
	A	予算執行状況の割合	現年予算及と前年度繰越額の合計額に対する決算額の割合	
	B			
	C			

4 事業の実績等

			18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(計画)	備考欄	
成果指標	A	予算執行状況の割合	目標 100%	100%	100%	100%		
			実績 61%	90%	91%			
	B	目標						
		実績						
C	目標							
	実績							
投入コスト	① 事業費	決算額 (千円)	80,527	123,400	86,091	130,000	21年度は当初予算額 18年度予算(52,200) 19年度予算(86,000) 20年度予算(80,000)	
		財源内訳	国費 (千円)					
			県費 (千円)					
			市債 (千円)	78,700	123,400	86,000		
			その他 (千円)					
		一般財源 (千円)	1,827	0	91			
	翌年度への繰越額 (千円)	52,200	14,800	8,700				
	② 概算人件費等	人件費等 (千円)	13,275	24,225	19,200			
		正規職員 (千円)	13,275	24,225	19,200			
			その他 (千円)					
		人役数 (人)	1.77	3.23	2.56			
			正規職員 (人)	1.77	3.23	2.56		
		その他 (人)						
総コスト=①+② (千円)		93,802	147,625	105,291				
市民1人当たりコスト (円)		287	432	309				
年度末住民基本台帳人数 (人)		327,310	341,544	340,695	総コスト/年度末人口			

5 成果指標で表せない事業成果・市民満足度・その他課題点等

平成18年度(縄手町排水機場新設用地取得、東秦泉寺排水機場流入渠改修、宇賀谷・福井第二・下知排水機場ポンプ増設実施設計)
 平成19年度(縄手町排水機場φ300×2完成、福井第二排水機φ800ポンプ増設工事、大戸川支川・薊野中町水路他改修、種崎水路改修実施設計)
 平成20年度(福井第二排水機場φ800ポンプ増設完成、宇賀谷排水機場φ500・下知排水機場φ800ポンプ増設工事、中秦泉寺・朝倉丙・介良・横浜・南万々水路他改修)

6 1次評価(所属長評価)

評価日(平成21年 9月 7日)

評価項目		評価基準	1次	平均 点数	評価内容の説明
事業実施の必要性	① [施策体系等での位置付け] 事業の実施が市の総合計画・実施計画・市長マニフェスト等の目標達成に結びつくか、又は、事業の根拠等に結びつくか	A (5) 結びつく B (3) 一部結びつく C (1) あまり結びつかない D (0) 結びつかない	A	4.0	本事業は、「安全・安心のまちづくり」のため、災害に強い都市基盤の整備を目的としており、市総合計画(第3次実施計画)に掲げる「災害に強いまちづくり」の趣旨に合致している。 また、都市化の進行に伴い土地利用が高度化されたこと、近年の気象変動による局地的なゲリラ豪雨等により、各地で浸水が頻繁に発生していることから、市民の浸水不安解消に向け、今後も、事業推進が求められている。
	② [市民ニーズの傾向] 事業の実施に対する市民のニーズ(需要量)の傾向はどうか	A (5) 非常に多い、急増している B (3) 横ばいである C (1) 少ない、減少している D (0) ほとんどない	B		
事業内容の有効性	③ [成果の達成状況] 事業の成果指標の達成状況は順調か	A (5) 十分に達成している B (3) 概ね達成している C (1) あまり順調ではない D (0) 十分な成果を望めない	B	4.0	成果の達成状況は、概ね順調である。 事業成果向上のため、他課とも調整を行い効率的に事業推進を図っている。
	④ [事業の手法・活動内容] 事業成果の向上のための手法・活動内容の妥当性	A (5) 妥当である B (3) 概ね妥当である C (1) 検討の余地がある D (0) 見直しが必要である	A		
事業実施の効率性	⑤ [アウトソーシングの可能性] 事業の実施にかかる民間活力利用の可能性	A (5) 実施済・できない B (3) 行政主体が望ましい C (1) 検討の余地はある D (0) 十分可能である	B	4.0	事業規模によっては、実施設計を外注し実施しているが、技術者育成の面からも、可能な限り市職員での実施を検討していく。 公共下水道事業との整合性を図りながら、効率的な整備を検討していく。
	⑥ [事業統合・連携・コスト削減] 類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性	A (5) 現状が望ましい・できない B (3) 概ね効率的にできている C (1) 検討の余地がある D (0) 十分可能である	A		
事業実施の公平性	⑦ [受益者の偏り] 事業の受益者が特定の個人(団体)等に偏りがなく公平性が保たれているか	A (5) 極めて公平性が高い B (3) 概ね保たれている C (1) 偏っている D (0) 公平性を欠いている	B	4.0	本事業は、浸水地区を対象に行っているものであるが、これまでに、各浸水地区の河川及び排水機場を、順次、改修整備してきており、受益者も広域にわたるため、公平性は保たれている。 本事業は、起債(自然災害)にて実施しており、受益者負担の視点には馴染まない。
	⑧ [受益者負担の適正化] 事業実施の財源として、受益者負担割合(一般財源負担割合)は妥当か。補助金等交付事業の場合、対象経費は妥当か。	A (5) 適正な負担割合である B (3) 概ね適正な負担割合である C (1) 検討の余地がある D (0) 検討すべきである	A		
総合点	16.0	総合評価	○ A 事業継続 (総合点が16点以上で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合) B 経費削減に努め事業継続 (総合点が12点以上16点未満で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合) C 事業縮小・再構築の検討 (総合点が4点以上12点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで2点以下がある場合) D 事業廃止・凍結の検討 (総合点が4点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで1点以下がある場合)		

7 2次評価(部局長評価)

評価日(平成21年 9月 8日)

総合評価	評価理由・今後の方向性等
○ A 事業継続	1次評価のとおり
B 経費削減に努め事業継続	
C 事業縮小・再構築の検討	
D 事業廃止・凍結の検討	

8 特記事項

--